

# 国語科学習指導案

指導者 東広島市立上黒瀬小学校 加藤 紀江

1 研修テーマ 学校行事における実体験を、考えを形成する力につなげる指導の工夫

2 日時 令和5年10月27日(金)第3校時

3 学年 第1学年 男子6名 女子2名 計8名

4 単元名 かみぐるせこうつうミュージアムでしようかいしよう  
「いろいろなふね」(東京書籍 あたらしいこくご 一下)

## 5 単元について

### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の指導事項(1)オ「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」力を育成するには、文章に登場するものやこと、働きと似ているものを自分の経験の中から連想して思いをもつ必要がある。

本単元で扱う「いろいろなふね」は、四種類の異なった特色をもつ船が取り上げられており、それぞれの「やく目」「つくり」「できること」を説明した文章である。「やく目」「つくり」「できること」に着目させることにより、自分の経験の中で見たことがあるものやよく知っているもの、似た働きがあるものを連想し、それらの共通点や相違点を探ることで感想を引き出すことができる教材だと考えられる。

### (2) 児童観

本学級の児童は、これまでに、教材文「さとうとしお」を読む単元において砂糖と塩を比べ、「見た目」「触感」「味」「でき方」の相違点や「どちらも食べ物をおいしくする。」という共通点で内容を整理して理解する学習を経験している。また教材文「どうやってみをまもるのかな」では動物の体の特徴と身の守り方を文章のまとまりごとに内容を読み取る学習を経験し、単元末のふりかえりでどの身の守り方が特にすごかったかの感想を書いた。読み取った内容に対して自分の思いを書くことはできたが、理由を自分の体験と結び付けて考えていた児童はいなかった。写真を見て、出てくる動物を「動物園で見たことがある。」「図鑑で見た。」といった体験を想起することはできるが、文章から読み取った内容と自分の体験とを結び付けて考え、解釈することは経験がない。よって、自分の体験を想起させ、文章の内容と結び付けて解釈していくための手立てが必要である。

また、乗り物に乗った経験については、児童が日常的に公共交通機関を利用する機会は少なく、自家用車に同乗することに留まる。単元に入る前に「のりものアンケート」を行ったところ、全員が旅行や体験会などで消防車やオープンカーなど10種類以上の様々な乗り物に触れた経験があると答えていたが、その「やく目」「つくり」「できること」に着目して乗車していた児童はいない。そのため、自分の体験と結び付ける際には、「やく目」「つくり」「できること」に着目させた上で体験を捉えなおす必要がある。

本単元の前に、社会見学で観光バスやアストラムラインに乗車し、「ヌマジ交通ミュージアム」で乗り物の展示を見る機会があり、乗り物への関心は高まっていると思われる。

### (3) 指導観

指導にあたっては、紹介したい乗り物を「のりものカード」にまとめ、「かみぐるせこうつうミュージアム」の職員になって、一緒に社会見学に行った2年生に紹介するというゴールを設定し、どのようにまとめたらいいかを知るために教材文を読んでいく。

社会見学に合わせ、単元導入前から乗り物に関連する本の「考え聞かせ」を行う。様々な乗り物があることや、乗り物によって特徴があることに気付かせるとともに、児童の乗り物の知識や経験を想起させておく。また、乗り物に関する本や図鑑を読めるコーナーを設けて並行読書を行い、紹介したい乗り物のページには付箋を付けさせることで、目的意識をもって読書をしていくようにさせる。

学習を進めるにあたっては、船を「やく目」「つくり」「できること」に沿って、それぞれの船の内容を整理し、ワークシートにまとめる活動を行う。その際、それぞれに違う色で線を引かせることで、重要な語や文を探しやすくする。文章の内容と自分の体験とを結び付けやすくするため、ワークシー

トには、「やく目」「つくり」「できること」のほかに「にているもの」と「おもったこと」を書く欄を設ける。文章の内容と似ているものを想起させ、思ったことを書かせるようにする。

自分の体験と結び付けて解釈できるようにするために、「つくり」や「したこと」をより詳しく想起させ、大きさや広さ、同じところや違うところ、優れていると思うところなどを考えさせていく。

単元の後半では、2年生に紹介したい乗り物を並行読書していた本の中から選び、その乗り物について「やく目」「つくり」「できること」を本の内容から選び出してまとめる。その際、本から抜き出した言葉を、付箋を用いて整理させることで、「やく目」「つくり」「できること」のつながりを確かめながらまとめられるようにする。

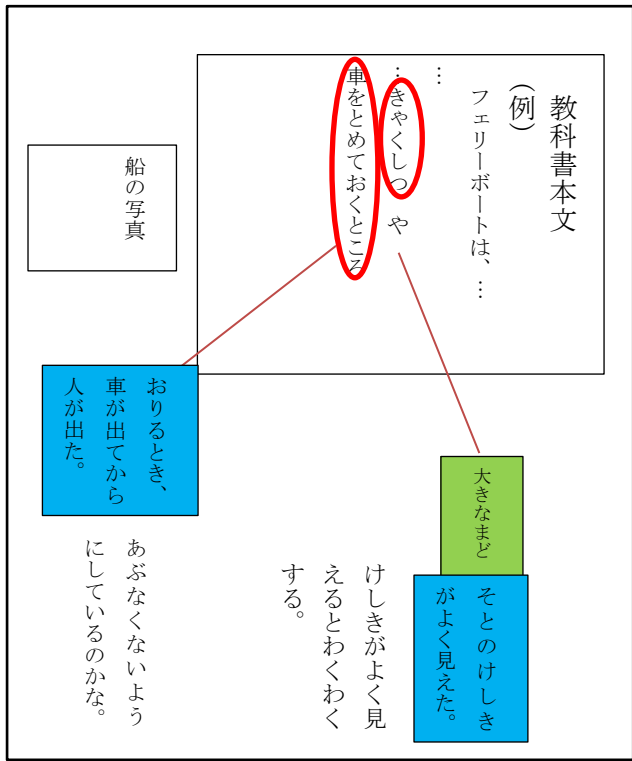
## 6 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

## 7 単元の評価規準

乗り物の仕組みなどを説明した文章を読み、分かったことや思ったことを のりものカードにまとめる活動を通した指導【言語活動例 C(2) ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。  ((2) ア)	・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。  (C(1) ウ)  ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。  (C(1) オ)	・進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付け、学習課題に沿って、分かったことや思ったことを文章にまとめようとしている。

＜評価の具体及び手立て＞

	<p>評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】</p>	<p>「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て</p>							
<p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>	<p>前時までのワークシート</p>  <p>※色付きの付箋は、児童の乗船体験（似たような体験）をした際に見付けた「つくり（緑）」「おもったこと（青）」</p> <p>※付箋付近に書いた言葉は児童の気付きや思ったこと</p>	<p>・体験と文章の内容をつなげて考えられない児童には、大きさ、広さ、同じところ、違うところなどを質問し、児童自身の考えを引き出すよう支援する。</p>							
	<p>評価するワークシート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="459 1288 630 1344">かんそう</th> <th data-bbox="630 1288 790 1344">たいけんとなげがえたこと</th> <th data-bbox="790 1288 957 1344">たいけんして見つけたもの・したこと</th> <th data-bbox="957 1288 1125 1344">ふねについてわかったこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="459 1344 630 1960"> <p>また、けしきを 見ながら フェリーボートにのりたいです。こんどは 車で のってみたいで</p> </td> <td data-bbox="630 1344 790 1960"> <p>人がきやくしつで 休んで いるときに、けしきが よく見えると わくわくできるから 大きなまどが あるのだなと おもいました。</p> </td> <td data-bbox="790 1344 957 1960"> <p>わたしは、なつやすみに フェリーボートにのりました。きやくしつに大きなまどがありました。その けしきが よく見えました。</p> </td> <td data-bbox="957 1344 1125 1960"> <p>フェリーボートの中には、きやくしつがありません。人は、車を ふねに入れてから、きやくしつで 休みます。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	かんそう	たいけんとなげがえたこと	たいけんして見つけたもの・したこと	ふねについてわかったこと	<p>また、けしきを 見ながら フェリーボートにのりたいです。こんどは 車で のってみたいで</p>	<p>人がきやくしつで 休んで いるときに、けしきが よく見えると わくわくできるから 大きなまどが あるのだなと おもいました。</p>	<p>わたしは、なつやすみに フェリーボートにのりました。きやくしつに大きなまどがありました。その けしきが よく見えました。</p>	<p>フェリーボートの中には、きやくしつがありません。人は、車を ふねに入れてから、きやくしつで 休みます。</p>
かんそう	たいけんとなげがえたこと	たいけんして見つけたもの・したこと	ふねについてわかったこと						
<p>また、けしきを 見ながら フェリーボートにのりたいです。こんどは 車で のってみたいで</p>	<p>人がきやくしつで 休んで いるときに、けしきが よく見えると わくわくできるから 大きなまどが あるのだなと おもいました。</p>	<p>わたしは、なつやすみに フェリーボートにのりました。きやくしつに大きなまどがありました。その けしきが よく見えました。</p>	<p>フェリーボートの中には、きやくしつがありません。人は、車を ふねに入れてから、きやくしつで 休みます。</p>						

思考・判断・表現

8 指導と評価の計画（全 15 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
	単元 開始前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物の図鑑や絵本の「考え聞かせ」を聞く。</li> <li>・乗り物に関する本の並行読書を始める。</li> </ul>				
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物のことを調べて「のりものカード」にまとめ、紹介するというゴールを設定し、学習の見通しを立てる。</li> <li>・モデル文を提示することにより、イメージをもたせる。</li> </ul>				
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を読み、「はじめ」「なか」「おわり」という教材文全体の構成と、「なか」には四つの船について書かれていることを捉える。</li> </ul>	○			[知識・技能] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四つのそれぞれの船について、「やく目」「つくり」「できること」の観点に沿って内容を整理しワークシートにまとめる。</li> <li>・自分の経験と結びつけるために、「似ているもの」という項目を設け、「やく目」「つくり」「できること」が似ているもの・こと・体験を想起させる。</li> </ul>				
	7 ・ 8 ・ 9 （本時） ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四つのそれぞれの船の中から一つを選び、自分の体験を思い出す。</li> <li>・教材文と自分の体験とを結び付け、気付いたことをメモする。</li> <li>・メモをもとに教材文と自分の体験とを結び付け、解釈する。（本時）</li> <li>・解釈したことをもとに感想をもち、文章にまとめる。</li> </ul>		○	○	[思考・判断・表現] <u>ワークシート・発言</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。  [主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子・ワークシート</u> ・進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付け、学習課題に沿って、分かったことや思ったことを文章にまとめようとしている。
	11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並行読書をしてきた本の中から紹介したい乗り物を選び、「しごと」「つくり」「できること」の観点に沿って内容を整理し「のりものカード」にまとめる。</li> </ul>		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート・発言</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
三	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生に紹介したい、乗り物のすごいところを自分の体験と結び付けて書く。</li> </ul>				
	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生を「かみぐるせこうつうミュージアム」に招待し、まとめたことを職員になったつもりで発表する。</li> </ul>				
	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習について、できるようになったことや頑張ったことを振り返る。</li> </ul>				

9 本時の学習

(1) 本時の目標

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 単元計画から本時の学習を確認する。	○前時に、自分が体験したことと教材文をつなげたことを確認する。	
2 本時の学習課題を設定する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           (め) ふねとたいけんをつなげて、わかったことを文にまとめよう。         </div>	
3 教材文と体験をつなげて書く。	<p>□船と体験が線でつながりましたか。</p> <p>○教師によるモデル文を示しながら確かめる。</p> <p>○船にあったものやしたことを書いた付箋の中で、書きたいものを選ぶよう指示する。</p> <p>○ワークシートの緑の枠の中に、体験を書くよう指示する。</p> <p>○ワークシートの赤い枠の中に、体験とつながるキーワードがある文を抜き出して書くよう指示する。</p> <p>□教科書の文と体験をつなげて、どんなことに気が付きましたか。「わかった!」「同じ」「違う」「はてな?」というところを友達と話してみましょう。</p> <p>○前時にメモしておいたところを話すよう指示する。</p> <p>○考えが出にくい児童には、児童が体験した時のことを想起させ、同じところや違うところを見付けるよう助言する。</p> <p>◆質問で引き出ししながら、自分の言葉で話せるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が釣ったときは5匹しかつれなかったけど、漁船は網だからたくさんとれそう。</li> <li>・客船に乗ったときプールもあって、客船はたくさんの人を運ぶから、遊べるところを作っているのかなと思った。</li> <li>・フェリーボートの客室にふわふわのいすがあって、乗っている人が気持ちよく座るためにふわふわにしていると思うよ。</li> </ul> <p>○話したことをワークシートの黒い枠の中に書くよう指示する。友達と話して新たに気付いたことを書き足してもよいことを助言する。</p> <p>○ここまで書いたことを読むよう、指示する。</p>	<p>[思考・判断・表現] ワークシート・発言</p> <p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>※本時では、文章の内容と自分の体験とを結び付けて解釈する段階までの指導に生かす評価に留めることとし、文章の内容に対する思い・感想をもっている様子については次時に記録に残す評価を行う。</p>
5 まとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           (ま) 文とたいけんをつなげてかんがえると、ふねのことがよくわかる。         </div>	



## 10 指導の実際

### (1) 指導上の工夫

#### ○のりものアンケート

単元に入る前に「のりものアンケート」を実施した。日常的には自家用車以外に乗ることはほとんどないが、色々な乗り物に乗った経験があることが分かった。例えば田を有する家庭の児童は農業用トラクターに乗ったことがあったり、旅行でフェリーに乗って宮島や大久野島へ行ったことがあったりする児童がいた。あらかじめ乗り物体験を把握しておくことで、興味がありそうな乗り物が乗っている本を並べておいたり、授業中に児童から乗り物体験を引き出しやすくしたりできた。

#### ○他教科との関連

単元に入る前に、図画工作科の時間で動く乗り物作りを扱う題材を学習し、乗り物への興味をもたせた。



その後、社会見学で「ヌマジ交通ミュージアム」へ行った。社会見学では、観光バスやアストラム

ラインに乗る際、児童に「どんなものがあるか」「どんなことができるか」を問いかけ、「つくり」や「できること」に注目させるようにした。「窓が大きい。」「ミラーがたくさんある。」「優先席がある」「もつところ（つり革）がある。」など、色々なものを見付けていた。

社会見学後、ミュージアムの様子を想起させて、児童と共にゴールを設定した。図工科で作った乗り物を展示しておくことで教室が「カミグロセこうつうミュージアム」であることを意識付け、乗り物を紹介したいという気持ちを持続させるようにした。

#### ○並行読書

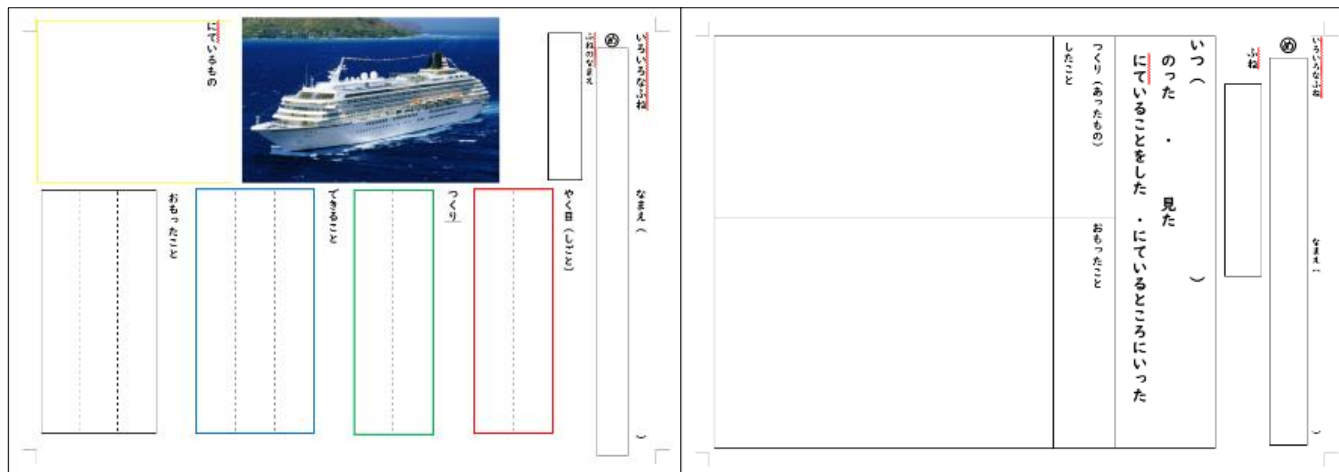
学校司書に学校図書館から乗り物に関する本を集めてもらった。絵本『ふねくんのたび』は最後に色々な船が絵で登場し、児童から「これ乗ったことある！フェリーだよ。」「見たことある！」と、普段船に触れる機会のない児童に興味をもたせるのに有効だった。『かもつせんのいちにち』では貨物船内部の「つくり」を紹介しており、「つくり」や「できること」に注目させながら考え聞かせをすることができた。



また、社会見学後には乗車したアストラムラインが掲載されている『ぜんこく電車スーパーざかん⑤モノレール・ろめん電車』を使って、図鑑を見る際には写真と紹介文がどのように書かれているのかを確かめながら読んだり、写真の周りに小さく書かれていることにも注目して読むことを確かめたりした。その他の本は教室の後方に並べ、紹介したい乗り物のページには付箋を付けさせて、目的意識をもって読書をしていくようにさせた。その際、「はたらくじどう車 しごととつくり①～⑥」は、「やく目」「つくり」「できること」が既にわかりやすくまとめられている本だったため、あえてはじめから並べることはせず、第三次 11時・12時で本から乗り物を選んでまとめる際、支援が必要と考えられる児童に個別で提示し、選ばせるようにした。

○ワークシート

第二次では、教材文を読み取る際、ワークシートに「にているもの」という項目を設け、「やく目」「つくり」「できること」が似ているもの・こと・体験のいずれかを想起させるようにした。例えば、客船と似ているものとして「ホテル」「レストラン」、漁船と似ているものとして「つり」を挙げている児童がいた。四つの船について読み取った後、実際に乗ったことがあったり似た体験をしたりしたことがある船の中から一つ選び、「にているつくり(あったもの)」「したこと」を緑の付箋、「おもったこと」を青の付箋に書き出させた。



第二次8時では、その付箋を教科書本文と線をつなぐことで、教科書の内容と自分の体験をつなげて、気付いたことを付箋近くにメモしておくようにした。本文の記述にないものは写真とつないでもよいことにした。乗船体験がある児童は自分の体験の中からの気づき、似たような体験がある児童は自分の体験との違いを問いかけ、気付いたことをメモするようにさせた。

第二次9時(本時)では、例文をもとに、メモしたことを文にまとめた。書きやすくするための手立てとして、まず教科書の内容とつなげた自分の体験を、例文をもとにワークシートの緑色で囲まれた部分にまとめさせた。次に、関連する教科書の内容をワークシートの赤で囲まれた部分に書き込み、最後につなげて気付いたことや思ったことをワークシートの黒で囲まれた部分にまとめるようにさせた。



第三次11・12時では、まず教師が作った例文と元になった図書のページを印刷したものを配り、読み取る練習をした。例文の言葉を図書のページから見付け、線を引かせるようにした。「つくり」は緑、「できること」は青の線を引かせることで、「つくり」と「できること」はすぐ近くに書いてあることに気付かせることができた。「やく目」は「どんな仕事をする車か？」と問いかけ、それが書いてある箇所を見付けて赤で線を引かせるようにした。児童が紹介したい乗り物が描かれて



いるページをコピーして渡し、「やく目」はピンクの付箋、「つくり」は緑の付箋、「できること」は青の付箋に書き出させるようにした。全体で、例文を示しながら「～ための車です。」「～があります。」「することができます。」といった、それぞれの文末の表現を確かめて、ワークシートにまとめるようにさせた。

第三次 13 時では、調べた車の「やく目」「つくり」「できること」の中から 2 年生に紹介したいすごいところを選び、乗ったときのことや、身近な体験を想起させてまとめるようにさせた。児童同士で読み合い、伝わるかどうかを確かめさせるようにした。

第三次 14 時では、それぞれが調べた乗り物について 2 年生に発表した。2 年生からたくさんの質問を受け、写真を指差しながら答えていた。胸に付けているのは、「カミグロセこうつうミュージアム」の名札で、職員として 2 年生に乗り物を紹介するという活動への意欲をもたせるために第三次の初めから付けているものである。



## (2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

第二次で「やく目」「つくり」「できること」を教材文から見付け出す際、「やく目」や「つくり」という言葉自体が児童にとって捉えにくかったため、まず、写真や乗船したことがある児童の経験からどんなものがあるかを出させた上で「つくり（あるもの）」を本文から見付けさせ、「つくり」に対応する「できること」を本文から見付けるという順で読み取らせるようにした。「やく目」は、「どんなしごとをするふねか？」をまず問いかけた。すると、初めは本文ではなく写真から見た印象や経験から答えていたので、その内容を必ず本文の中から見付けるよう、線を引かせた。このパターンを繰り返すことにより、「やく目」「つくり」「できること」を本文から見付けられるようになった。

教材文の言葉で、「きゃくしつ」「さかなを見付けるきかい」など、多くの児童が見たことがないものがあつたため、イメージできるよう、デジタル教科書についている動画で本文と対応する箇所を見せた。その上で「似ているもの」を想起させ、ワークシートに書かせるようにした。

## 11 評価の実際

### (1) 評価の具体

○「思考・判断・表現 C(1)オ」の評価

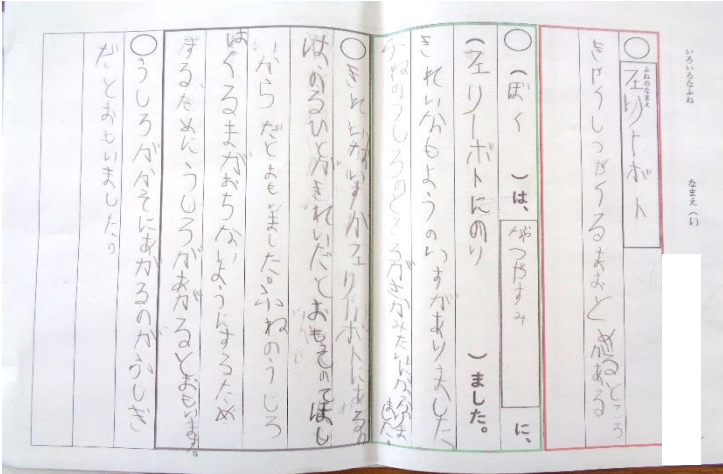
教科書の内容と自分の体験をつなげて考え、感想を書いたワークシートの記述内容から評価した。

**わかったこと (赤枠)** …教科書本文から、自分の体験とつながりのある内容を選んで書いている。

**自分の体験 (緑枠)** …選んだ船に乗ったときの体験、または似ている体験を書いている。

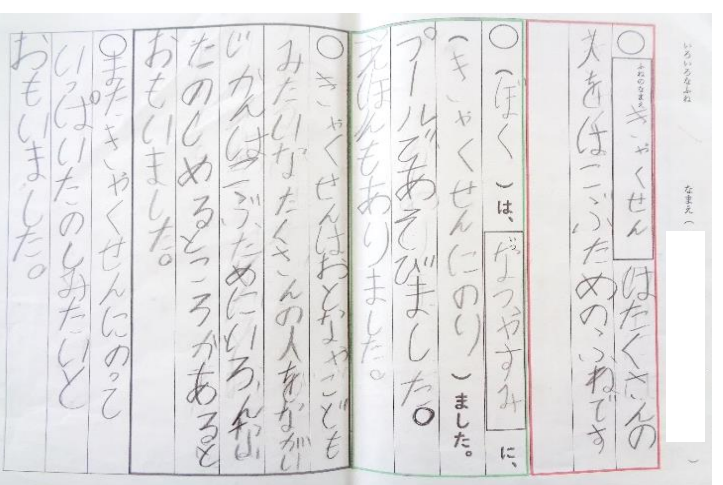
**つなげて思ったこと・考えたこと (黒太枠)** 教科書の内容と自分の体験をつなげて思ったことや考えたことを書いている。

**感想 (黒細枠)** …上記三つを踏まえて感想を書いている。

<p>うしろがかってに上がるのがふしぎだとおもいました。</p>	<p>きれいなすがフェリーボートにあるのは、のるひとがきれいだとおもってほしいからだとおもいました。ふねのうしろは、くるまがおちないようにするためにうしろがあがるとおもいます。</p>	<p>ぼくは、なつやすみに、フェリーボートにのりました。きれいなもようのいすがありました。ふねのうしろのところがかみみたいになっていました。</p>	<p>フェリーボートには、きやくしつやくるまをとめるところがあります。</p>	
----------------------------------	--	--	---	---

児童アの記述 (左は右のワークシートの内容を打ち直したもの)

児童アは、「きやくしつやくるまをとめるところ」があることと「(きやくしつに)きれいなすが」や「ふねのうしろのところ」を見た体験を結び付けて考え、それぞれについて考えたこと、感想を書いているので「おおむね満足できる」状況(B)とした。

<p>またきやくせんにとついでにのりたいとおもいました。</p>	<p>きやくせんはおとなや子どもみたいなたくさんの人をながいじかんはこぶためにいろんなたのしめるところがあるとおもいました。</p>	<p>ぼくは、なつやすみに、きやくせんにとりました。プールであそびました。えほんもありました。</p>	<p>きやくせんはたくさんの人をはこぶためのふねです。</p>	
----------------------------------	--	---	---------------------------------	--

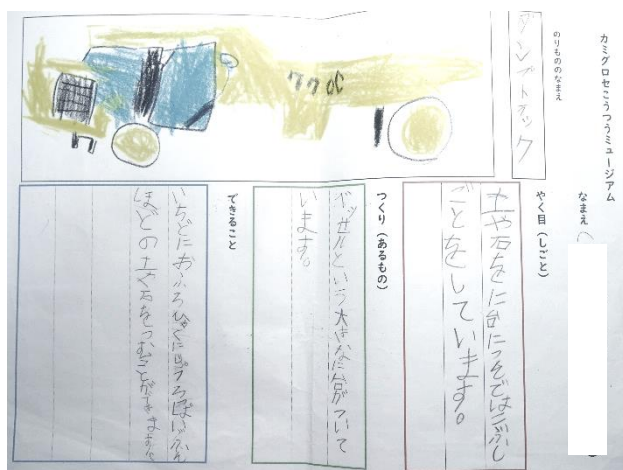
児童イの記述 (左は右のワークシートの内容を打ち直したもの)

児童イは、客船は「たくさんの人をはこぶためのふね」であることと、客船に乗ってプールで遊んだり絵本を見たりした経験を結び付け、「きやくせんはおとなや子どもみたいなたくさんの人をながいじかんはこぶためにいろんなたのしめるところがあるとおもいました。」と記述している。

色々なことをして楽しんだ自分の体験だけでなく、客船に乗る大人や子供の視点に立ち、考えをもっていることから、「十分満足できる」状況（A）とした。

一方、船を遠くから見た体験しかなく、似たような体験も思い浮かばなかった児童ウは、教科書の内容と自分の体験をつなげて考えることがなかなかできず、「努力を要する」状況（C）とした。この児童に対しては、漁船を見た時の記憶と教科書の写真を比べて思い出すように促し、「あみ」を見た記憶から、教科書本文の「あみでさかなをとる」ところを想像させ、どう考えるかを記述するよう促した。

#### ○「思考・判断・表現 C（1）ウ」の評価



児童エのワークシート

児童エは、ダンプトラックを調べたことの中から、「土や石をに台につんではこぶしごとをしています。」という「やく目」に応じて、「つくり」として「ベッセルという大きな台がついています。」と、荷台の部分について正しく選び出して記述している。さらに、「つくり」に合わせて「できること」では、「いちどにおふろひやくにじゅうろっぱいぶんほどの土や石をつむことができます。」と記述しており、「おおむね満足できる」状況（B）とした。

#### (2) 児童の評価

- ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことについての評価は、2名を「十分満足できる」状況（A）、5名を「おおむね満足できる」状況（B）、1名を「努力を要する」状況（C）とした。
- ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことについては、8名のうち7名を「おおむね満足できる」状況（B）とした。一方、本の中から重要な語や文を選び出せなかった児童1名を「努力を要する」状況（C）とした。「やく目」「つくり」は見付けられたものの、その「つくり」によって「できること」が書いてある文を選び出すことに課題があった。この児童に対しては、同じ乗り物が載っている別の本を用意したり、「つくり」を確かめてから「できること」を探すよう促したりして記述させるようにした。

## 12 成果と課題

### (1) 成果

- ・初めにアンケートを行って乗り物体験を想起させたり、第二次のワークシートに「にているところ」という項目を設けたり、船と体験を結び付けて考えさせたりと、自分の体験を振り返る場を繰り返して設けたことで、教科書本文と自分の体験を行き来しながら、教科書を読むことができた。そのことにより、言葉を名称として捉えるのではなく、言葉が表すものや機能を具体的に想像させることができた。
- ・自分が見たものや知っていることを話したい気持ちが大きい低学年児童にとって、体験を想起することは楽しく、教科書本文と体験をつなげて考えることや、社会見学へ行ったことと単元をつなげて課題を設定したことは、意欲的に学ぶことにつながった。

### (2) 課題

- ・体験が少ない児童は、言葉から実際のものや機能を理解することが難しかった。今後も考え聞かせ

を続け、写真や絵と体験を結び付けたり、友達の体験を聞いて想像したりする場をもっていきたい。

- ・また、「やく目」「つくり」「できること」の関係を捉えきれない児童も、目で見ている写真などの情報と、言葉とを結び付けられていないように感じた。色々なジャンルの本に触れる機会を作ったり、意識的に新しい言葉に出会わせたりして、語彙を増やすことや、体験と言葉とを結び付けて使うよう促していきたい。

### (3) 今後に向けて

- ・考え聞かせ、並行読書について

本クラスの児童には、夏休み前までは毎朝、その後も週1回は絵本の読み聞かせを行ってきた。本研修を受けるまでは物語を読むことが多かったが、科学絵本や図鑑も、問いかけながら一緒に読むことで、児童が興味をもつ幅が広がったように思う。また、知らなかった児童の体験をクラスのみんなで共有することにもつながった。今まで、並行読書の本は少し紹介する程度であとは並べておいただけだったが、何冊か一緒に読んだことで、児童が親しみを持ち、自分でも進んで読むようになったことがよかったと思う。今後も続けていきたい。

- ・考えの形成について

一年生の児童がどうやって考えを形成していけるのかと悩んだが、児童それぞれにそれなりの経験があり、見たものや感じたこと、大きさや重さなど、観点を示しながら引き出し、「どう思う？」と問いかけていくと、一年生なりの考えをもつことができるのだなと思った。それを書くことはまた別の難しさがあるが、児童が自分の力で考えを形成していけるよう、観点をもたせながら考えることを繰り返ささせていきたいと思う。

### 付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
かもつせんのいちにち	谷川夏樹	福音館書店
ふねくんのたび	いしかわこうじ	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん①～⑤		ポプラ社
大解説！のりもの図鑑 DX②～⑧		ポプラ社
ぜんこく電車スーパーずかん⑤ モノレール・ろめん電車	長谷川章・監修、牧野理人・写真	ポプラ社
はたらくじどう車 しごととつくり①～⑥		小峰書店
小学館の図鑑 NEO 乗りもの		小学館